

第1回研究会議論の振り返り

2023年10月24日

事務局

論点① 監査要求事項を制定するに際し留意すべき点

- 認証制度間で共通する部分をまとめた認証制度の制定には留意が必要
 - 認証制度間で共通する部分をまとめた認証制度を制定した際、それが既存の認証制度の簡易版としての位置づけになると、信頼を得られない可能性があるため留意が必要
 - 他方、中小企業への普及を目指すためには簡易版も必要という議論もありうる
- 大企業のプライベート認証との協調がカギ
 - ハイブランドは独自の認証基準を策定し信頼を得ているため、外部から変更を迫るのは困難な可能性
- 新たに制定する認証制度により実現を目指すべきビジネスモデルも明確にすべき
 - 認証は信頼を買う行為であり、コストがかかる
 - 認証制度の強制性をどの程度に設定するかの議論も重要
 - 新たなルールにより形成されるビジネスモデルを特定した上で、誰に対するどのようなルールを作るかの議論も重要
- 利用目的に合わせた監査要求事項の絞り込みが重要
 - 対象とするマーケットで受け入れられる監査要求事項の内容の絞り込みが重要
- 認証制度の運用を視野に関係者の早期巻き込みが重要
 - EUで認められる制度の設立を目指す場合、EUの関係者を早期に巻き込む必要

論点① 監査要求事項を制定するに際し留意すべき点

- 既存の認証ビジネスとの関係性は慎重な検討が必要
 - 一般的に認証ビジネス、イニシアチブは利権が絡むため相互認証などは困難
 - 官主導で進める場合、その影響力の大きさには十分な配慮が重要
- 人権面における監査の限界を認識すべき
 - 欧米ではこれまでの監査における課題、改善点が議論されている
 - それを踏まえた上で、人権DDの実施を監査項目に加えるなどの工夫が必要
 - 欧州では欧州コーポレート・サステナビリティ・DD指令案（CS3D）の法制化にむけた議論がされている。その内容を理解した上で議論することが重要
- サプライヤーの状況に合わせた既存の認証制度の活用推進も効果的
 - サプライヤーにとって監査項目や基準について違いを把握し、合理的な判断をすることが困難。サプライヤーの状況に応じて適当な認証制度、イニチアチブを提案する機能も重要
- 監査は受けて終わりではなく、是正に向けた動機付けが重要
 - 監査の結果、是正が必要と判断された場合、是正することによる事業メリット、対応しないことによるリスクを理解してもらい、是正にむけた行動につなげることが重要

論点② 監査要求事項、基準

- 含めるべき監査要求事項は、認証を取得する主体が求める内容に合わせるのが基本
 - 認証を通じて信頼を得ようとする主体が何を求めているかの見極めが重要
- 既存イニシアチブ、国際認証などとの項目の整合性が重要
 - すでに既存のイニシアチブや認証制度を取得する企業も多いため、それら企業にとって追加的な負荷とならないよう、項目の整理が必要
- 環境に関する項目は含めるべき
 - 繊維産業連盟ガイドラインでは環境に関する内容を入れられなかったが、環境基準も網羅する必要
 - 要素としては、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、環境規制などに分けられ、内容によっては中小企業でも対応が可能
- 欧州市場への展開を目指した認証制度であるならば高い基準が必要
 - 欧州のハイブランドへの販売を目的とした監査の認証制度を目指す場合、高い基準が必要
 - その場合、目的に合わせ裨益対象を絞り込むことも必要

論点③ 今後のヒアリング候補

- 認定機関
 - 繊維関連のイニシアチブは製品評価技術基盤機構（NITE）で認証しているため、認定センターへのヒアリングは有益
 - 日本の試験機関が認定した結果を海外で受け入れてもらえる可能性についてのヒアリングも有益
- 欧州の政府関係機関
 - ターゲット市場である欧州のOECD加盟国などとの早期の情報共有、巻き込みを図ることは重要
- 人権NGO
 - ヒューマンライツナウ、CCCなど
- 国連機関
 - UNDPなど

今後の研究会に向けた全体計画

